

県立古河第一高等学校 (定時制) 令和 4 年度 自己評価表

目指す学校像	目指す学校像 校訓「高潔至誠 質実剛健 協同自治」の精神を基盤に、確かな学力と豊かな心・健やかな体を育て、生涯にわたって学び続けながら、社会の変化に対応して創造的にキャリアを形成し、地域の中核となって活躍できる人財を育成する。 (1) 「主体的・対話的で深い学び」の実践をとおして、自ら課題を見つけ、自ら解決する力を育む学校 (2) 望ましい職業観・勤労観を育成し、生徒一人ひとりの夢（希望進路）を実現する学校 (3) 基本的な生活習慣を確立させ、道徳教育・特別活動等を通して、規範意識や豊かな心を養う学校 (4) 特別活動や部活動を通して健やかな心身を育成し、協働を通して人間力の向上を目指す学校 (5) 情報発信の充実により「開かれた学校」を目指すとともに、家庭や地域との連携を通して、地域社会と協働できる学校 (6) 働き方改革を推進する学校			
	昨年度の成果と課題	重 点 項 目	重 点 目 標	達成状況
	・基礎基本の学び直しの指導に重点を置き、学ぶ楽しさを実感させる。 ・令和3年度卒業生8名全員が就職した。引き続き生徒全員の進路希望を実現するため、情報収集や適切な進路指導に努める。 ・単位修得を意識させ、生徒理解に基づいた個に応じた指導を引き続き行う。 ・生徒の基本的な生活習慣の確立を図り、遅刻者を減らす。また、服装・頭髪の乱れに関して、自己を振り返り社会人としての意識改革を図る。 ・規律ある落ち着いた学校生活を送っている生徒が多い。さらに、集団の一員としての自覚、規範意識の高揚を図るための指導を展開する。 ・キャリアパスポートの運用方法について校内の共通理解を図り、積極的な利活用をする。 ・開かれた学校を目指し、ホームページや各種通信、学校説明会等の充実を通して、保護者や地域へ適切な情報発信を行うとともに、中学校訪問や学校評議員会、PTA活動等を通して情報収集に努め、さらに開かれた学校づくりを進める。	学力の向上と学業の継続	①雇用主や家庭との連絡を密にし、生徒の欠席・遅刻を未然に防止して学習の継続を図るとともに、学業を放棄させないように努力する。 ②基礎・基本を丁寧に指導することで、毎時間の授業の理解度を高めるとともに、ICTの利用等をとおして生徒の興味関心を高め、主体的に学習に取り組む態度を養う。 ③教師の授業力を高めるために、授業開始前の時間を計画的に利用して教材研究や研修を充実させる。教科横断的な学びの機会を工夫する。 ④年間計画（シラバス）に基づいた授業時間の確保を目指す。 ⑤ICT機器（タブレット、電子黒板等）の利用方法について習熟し、授業での効果的な利活用を目指す。	
		生徒指導の徹底	⑥家庭や職場と情報を共有して生徒の実態を把握し、生徒を取り巻く環境の理解を深めた上で、教師と生徒のよりよい人間関係に基づいた生徒指導を行う。 ⑦学校生活を通じて、教師と生徒との信頼関係を築き、何事でも相談できる雰囲気づくりを進める。 ⑧潜在的ないじめや非行の早期発見に努め、未然防止と指導の徹底を図る。 ⑨安全教育に努め、事故の未然防止を図る。 ⑩粘り強く指導して、怠学からくる遅刻・欠課・早退などを減少させ、生活習慣の確立を図る。	
		健康管理と体力増進	⑪学校給食におけるマナーを身に付けさせる。 ⑫学校給食を通して食生活の大切さを認識させ、健康な身体づくりを推進する。 ⑬食育や健康教育に取り組み、生涯にわたって自ら健康を維持できる実践力を育む。 ⑭部活動の奨励により、心身共に健康な生徒を育成する。	
		開かれた学校づくりの推進	⑮定通教育振興会との連携や支援を受けて、教育の日の行事など教育活動を積極的に公開していく。 ⑯外部講師による授業等の機会を積極的に設け、地域社会との連携を図る。	
		「働き方改革」の推進	⑰勤務時間を遵守し、最終退勤時間を22時とする。 ⑱校内サーバーや教育情報ネットワークの利活用により、情報共有の効率化を図る。 ⑲衛生委員会を中心に、職員間で働き方についての工夫を提案し、実践につなげる。	

三つの方針		具 体 的 目 標	評 価		次年度(学期)への主な課題
「三つの方針」(スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」(グラデュエーション・ポリシー)	基礎的な学力と豊かな心、健やかな体を育て、主体性や社会性を身に付け、社会の一員として貢献できる人財。			
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー)	望ましい職業観・勤労観を育成し、生徒一人一人の多様な進路希望を実現する教育課程。			
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	中学校で学習した内容を基に、高等学校での学習内容を深め、協働しながら卒業に向かって努力できる生徒。			
評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評 価		次年度(学期)への主な課題
教科指導	授業を第一にする意識を向上させる。	職員間の情報共有を密にして連携を図り、授業に真剣に取り組む意識を高める。 ①			
	生徒の学力向上に努める。	授業内容の精選や教材の工夫をし、個に応じた指導を展開する。 ②			
		生徒の実態に応じた指導法を研修・研究し、授業に活かす。 ③④			
教科	国語	基礎学力の向上を図る。	基本的な漢字の読み書きを徹底して学び、定着を図る。 ②		
			小テストを通して、慣用句・四字熟語など語彙の定着を図る。 ②		
			様々な文章にふれる機会を増やし、話題を読みとり、文章の構成・主題を理解させる。 ②		
		わかりやすい授業展開に努める。	I C T機器(タブレット、電子黒板等)の利用等を通して、生徒の興味関心を引き出す工夫をする。 ③		
			アクティブラーニングを積極的に導入するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現できるような授業内容を研究し、読解力・表現力の育成を目指す。 ③		
		進路実現を見通した指導を充実させる。	外部団体への作品応募を通して、文章を書く機会を多く設定し、自己の確立と人間性の向上を図れるように努める。 ②		
			学習内容を十分に検討し、生徒の進路希望に対応した授業展開を目指す。 ④⑤		
	地歴	基礎学力の向上と定着	教科書と自作教材を併用した授業の展開に努める。 ②④		
		地理や歴史に対する興味・関心の向上	電子黒板やタブレットを活用した視覚教材の効果的な授業への活用を図る。 ③		
	公民	基礎学力の向上と定着	教科書と自作教材を併用した授業の展開に努める。 ②④		
		公民として必要な知識を学び能力と態度の涵養	電子黒板やタブレットを活用した視覚教材の効果的な授業への活用を図る。 ③		
	数学	基礎学力の向上を図る。	I C T機器を活用したり、独自のプリントを作成し利用したりしながら、きめ細かい指導を行う。 ②⑤		
		わかる喜びを実感する授業への改善に努める。	小・中学校で不十分であった部分をしっかり補填しつつ、生徒の実態に合わせて内容を精選した授業を展開する。必要に応じて補習授業を実施する。 ②④		
	理科	基礎学力の向上を図る。	教科書以外の教材の積極的な利用を進める。 ④		
		理科への興味をもたせる。	身の周りの具体的な例をあげ、学問と実際の例とをつなげる。 ②		

教科	保体	生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにするため、基本的な技能を身に付ける。	バランスよく種目を配分した年間計画を作成し、基本的な技能を身に付ける。	④			
			複数の種目を選択・履修させることで、進んでスポーツに取り組む環境をつくる。	④			
			ウォーミングアップを個人ないしグループで考え、主体的な取り組みをさせる。	④			
		健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図る。	生徒の実態に合わせてスポーツテストに取り組み、結果が前年を上回ることを目指す。	⑫⑬			
			食生活の見直しを行い、健康の保持増進に効果的な食事の在り方を考えさせる。	⑬			
	芸術	基本的な学習習慣を定着させる。	毎時間の授業を大切にすることを身に付けさせ、学習の内容の定着を図る。	②⑥			
		情操教育を充実させる。	生徒個々の感性や情操を育てる学習環境を整備し、作品づくりを通して感性を養う。	③⑦			
		鑑賞教育を充実させる。	他者の作品を鑑賞したり、評価することを通して、鑑賞する能力の向上を図る。	③⑤			
	外国語	基礎・基本的学力の定着を図る。	学び直しの時間を設け、ゆとりある授業展開をする。	①②			
			プリントやＩＣＴ機器等を活用して、繰り返し指導を行う。	②⑤			
		コミュニケーション能力を育成する。	英語の音声面の指導を積極的に行う。	②			
			教科書の例文を利用して、簡単な英作文ができるようにする。	②			
		個に応じた指導をする。	学力差に応じ、個々に対応した指導を行う。	①			
			学習目標を明確化し、主体的に学ぶ態度を養う。	③④			
	家庭	家庭や地域の生活課題について考えさせる。	家庭・家族の意義や社会との関わりについて理解し、男女平等や協力について認識させる。	②⑥			
			子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉について理解させる。	②③			
		生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を養う。	消費者の権利と責任などについて理解させ、消費生活の課題について認識させる。	②③			
			生活設計の立案を通して、生涯を見通した自己の生活について主体的に考えさせる。	①⑥			
	情報	基礎知識の向上を図る。	ＩＣＴ機器の活用を通して、他の教科でもＩＴ活用ができるような能力を育成する。	③			
			実習を通して生徒の知識や能力を把握し、個別指導や補習等を実施し能力の向上を図る。	②			
		情報を活用する態度を育てる。	正しい情報の発信や収集方法を知り、情報リテラシーを身に付ける。	③			
	商業	基礎学力の向上を図る。	簿記に対して興味・関心をもたせ、基本的な仕組みについて理解させる。	②			
			ビジネスの基礎や実務に関する基本的な知識を身に付ける。	⑦			
		簿記検定３級合格を目指す。	練習問題や過去問の反復練習を行い、検定試験合格の実力を付ける。	②			

教 務	授業時間の確保に努める。	年間指導計画を見直し、行事等の精選を図り授業時間の確保をする。	⑤		
		授業の開始と終了時間を厳守する。	⑥⑩		
	授業研究等の校内研修の充実に努める。	相互授業参観を行い、指導力の向上を図る。	③④		
	教育活動の公表に努める。	学校ホームページや学校説明会などを活用し、教育活動の積極的な公表に努める。	⑮		
		保護者・中学校教員・定通教育振興会員を対象に、年2回の授業参観・懇談会を実施する。	⑮		
生徒指導	遅刻者の減少に努める。	保護者との情報交換を密にし、基本的生活習慣の確立をめざす。	①⑥		
	非行の早期発見に努め、未然防止と指導の徹底を図る。	薬物乱用防止講演会を通して、薬物使用による人体への影響を理解させ、その予防を図る。	⑨⑩		
		学校生活全般を通して、規則を遵守する意味や意義の理解を図る。	⑩⑫		
		儀式的行事だけではなく、講演会や集団行動の際には正装を徹底する。	⑥		
	いじめに関して、学校いじめ防止法に基づき、いじめ防止に努める。	学校いじめ防止基本方針に示す評価規準に照らし、いじめに関するアンケート調査を行い、早期発見、実態把握及びいじめに対する措置を適切に行う。	⑧		
	安全教育を進め、事故の未然防止に努める。	交通安全教育を実施すると同時に、登下校指導を定期的に行う。	⑨		
保 健		生徒の通学手段を把握し、必要に応じた適切な指導を行う。	⑨		
	健康の保持増進のための一連の検査を円滑に実施する。	体位測定、内科検診、歯科検診、胸部X線撮影検査、心電図検査、尿検査などの諸検査を、職員及び保健関係機関、学校医などの協力を得て計画的に実施する。	⑬		
	心の教育、性教育など生徒の健康教育を推進する。	保健所、県関係諸機関、医療機関、スクールカウンセラーなどの連携を図り、生徒の心と体の健康教育を進める。	⑬		
	学校環境の安全確保及び学習活動に適切な環境の維持向上を図る。	校内の教育活動に適した環境の整備及び保持を図る。	⑥⑦		
		関係機関や自治体と連携し避難訓練を行い、住んでいる場所での防災意識を高める。	⑨		
進路指導	給食を通して望ましい食習慣を身に付けさせる。	食事前の手洗いを励行し、食事のマナーを身に付けさせるとともに、自らの健康を維持する食習慣を養成する。	⑫⑬		
	個々の進路希望に応じたガイダンスの充実を図る。	生徒との面談や三者面談を通し、個別の進路相談を行い進路実現を図る。	⑥⑦		
		生徒の能力や適性を把握し、個々の進路希望等に応じ、適切な指導を行う。	⑥		
	就職希望者に対して、積極的に就職先や企業等の開拓を推進する。	卒業生の就職実績のある企業を中心に積極的に就職要請訪問を行い、学校の特色ある教育活動の理解を促し内定につなげる。	①⑥		
特別活動	生徒の自主性と協調性を養う。	各種学校行事を生徒主体で企画・運営させ、円滑な実施ができるように指導・助言する。	⑦⑭		
		各種委員会の生徒を中心に、委員会を活動を行う。	⑦⑭		
	豊かな充実した学校生活を送る環境整備を図る。	生徒が部活動に積極的に参加できる環境をつくる。	⑥⑭		
		奉仕活動等や災害ボランティアにたいする意識向上を通して、社会性を育む。	⑦		
	キャリアパスポートの活用について	自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに、自己実現につなぐものとしてキャリアパスポートの利活用を通して、自己肯定感を涵養させる。	⑥⑩		

第1学年	生活指導を充実させる。	保護者との連絡を密にして、無断遅刻・欠席を未然に防ぐことに努める。 ①⑥			
		日頃より生徒の観察に努め、服装・頭髪の変化等に気を配り、生活面の乱れを未然に防ぐ。 ⑥⑦			
	基礎学力の向上を図る。	各教科担当者と常に連携して共通理解を図り、学期ごとに成績不振となる生徒の指導を行う。 ①			
	進路指導を充実させる。	進路を考える資料を提供し、面談を通して実現に向けた目標や計画を立てる支援をする。 ①⑩			
第2学年	生活習慣の確立と向上	保護者と連絡を密にし、社会のや地域の一員としてのマナーを身につける。 ⑥			
		安心・安全で意義のある学校生活の構築に努め、遅刻・欠席の減少つなげる。 ①⑨⑩			
	学校行事への主体的な参加	学校の中心学年になる意識の育成と自己肯定感、達成感を高める。 ⑦			
		委員会活動や生徒の役割分担を明確にし、全員参加の学級活動に努める。 ⑧⑩			
第3学年	進路実現に向けた準備	2年生としてすべきことや必要なことを考え、進路実現に向けた準備をする。 ⑥⑩			
		進路情報の積極的な共有により、自分ごととして意識し向上心を醸成する。 ②⑥			
	基本的な生活習慣の確立を図る。	保護者との連携を図り、学業の継続を図る。 ①			
		服装、頭髪等身なりを整え、落ち着いて学習に取り組む環境をつくる。 ⑥⑦			
第4学年	将来の自己実現のために、進路意識の高揚を図る。	進路についての意識調査を実施し、将来の構想を考えさせる。 ⑥⑩			
		LHRや放課後等を利用して生徒との個別面談を実施し、進路実現について考えさせる。 ⑦⑩			
		三者面談を実施し、保護者と進路についての共通理解を図る。 ①⑥			
	社会人として必要な学力の定着を図る。	基礎的・基本的な学習内容の確かな定着を図るため、生徒一人一人の習熟度を確認したり補習を実施したりする。 ②			
開かれた学校	進路希望を明確にさせる。	最高学年としての自覚をもたせ、進路実現に向けて積極的な就職・進学活動をさせる。 ⑥⑩			
	地域や保護者に情報を発信する。	学校ホームページや学校パンフレット、学級通信などを通して活動状況を密に発信する。 ⑮			
	広報活動を推進する。	学校説明会や学校公開・中学校訪問等を通して、広報活動に努める。Web上での学校説明の内容を充実させる。 ⑮			
	学校関係者との連携を密にする。	定通振興会・同窓会・学校評議員・PTAとの連携を密にし、意見聴取等により教育内容の改善・充実につなげる。 ⑮			
働き方改革	業務の見直しと業務時間の平準化に心掛ける。	各校務分掌内で、業務や行事の見直しを行い、構成員間の業務時間の平準化を図る工夫をする。 ⑯			
	情報共有の効率化に努める。	校内サーバーや教育情報ネットワークを利用し、業務の共通理解や効率化を図る。 ⑰			
	職員の意識高揚と実践の具体化を図る。	衛生委員会で働き方についての工夫や改善方法について提案し、実践につなげる。 ⑯			

※評価基準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない